

消防団長紹介

貝塚市消防団 団長 明海 重樹

昔から”ちぬの海”と呼ばれる大阪の海に抱かれ白砂青松がまぶしい「二色の浜」や、本州南限圏の天然記念物ブナ林を育む「和泉葛城山」など豊かな自然に囲まれたまち。千本搦きで賑わう名刹の水間寺や国宝の観音堂を有する孝恩寺があり、願泉寺を中心に形成された寺内町のまちなみなど、歴史の香りあふれるまち。コスモスシアター、善兵衛ランド、自然遊学館などのユニークな施設があり、多くの人が集い、心豊かに英知を育て文化を発信するまち。二色浜産業団地への企業誘致や、市立ドローンフィールドの活用により、商工業の発展と先進技術の普及に寄与するまち。こんな魅力と可能性に満ちたまちがわたしたちの貝塚市です。

貝塚市消防団は、1消防団本部と9個分団で構成され、市内を9区域に分け、1区域を1個分団が担当しています。活動の拠点となる消防団器具庫は、1個分団ごとに1箇所あり、それぞれ消防ポンプ自動車を配備しています。

団長は、昭和63年5月に入団以来、班長、副分団長を務められ、平成20年4月からは分団長、平成24年4月からは副団長を歴任し、令和4年4月から団長に任命されました。

明海消防団長は、資質温厚にして、責任感と実行力に富み、常に消防人としての誇りを遵守し、職務遂行にあたっては、永年の技量と経験により、団員をよく統率し、指導育成にあたりと共自ら研鑽努力を惜しまず、また時機に即した決断力は全団員より絶大な信頼を寄せられています。

消防団長として、市民の皆様が安全で安心して暮らせる街となるよう日々研鑽し、また、消防団長を退任した後も、防災士として地域のお役に立ちたいと考えておられます。

新型コロナウイルスが問題となり3年目となりました。消防団活動については訓練や会議の中止が今現在も続いており、新規の団員にいたっては基礎教育訓練でさえ中止や延期となっています。早く新型コロナウイルスが収束し、普段の消防団活動がおこなえるよう願っています。